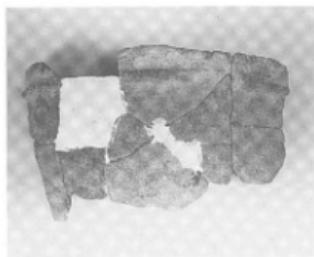


図版第14



5



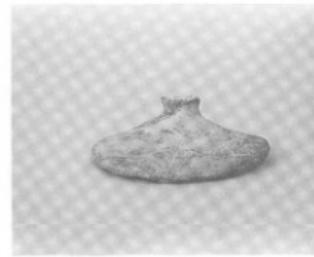
1



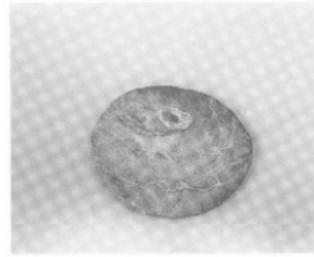
2



4



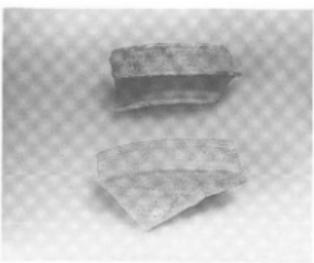
3



3



6



7、9



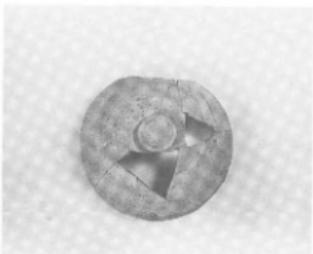
8



10



11

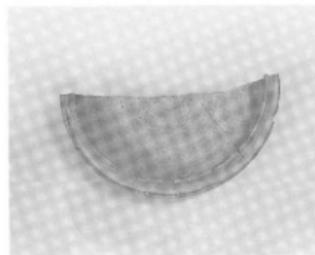


11

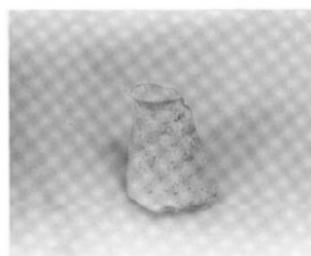
圖版第16



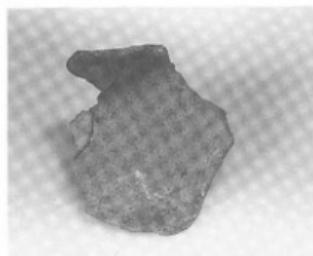
13



13



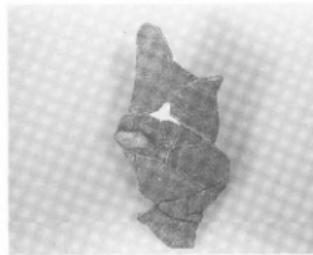
15



14



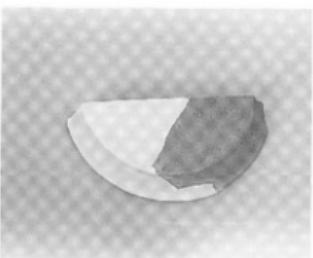
17



16



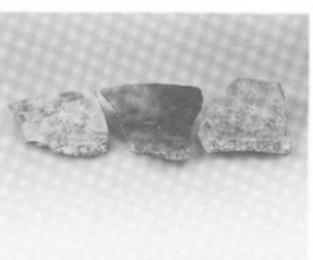
19



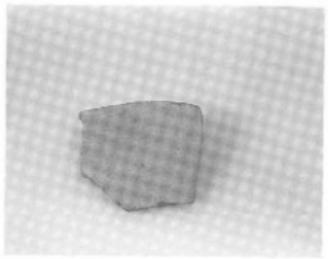
19



20

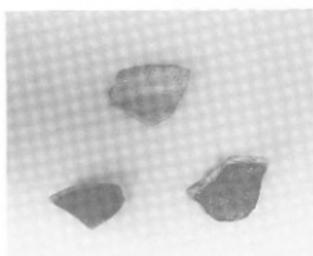


20

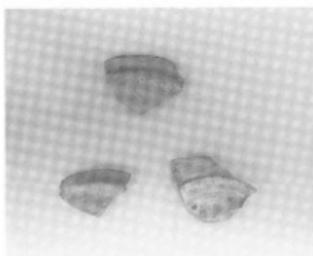


18

圖版第18



21、22、23



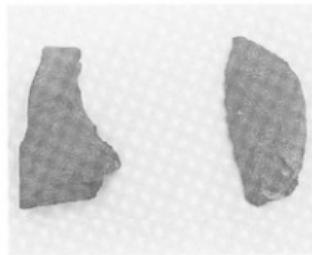
21、22、23



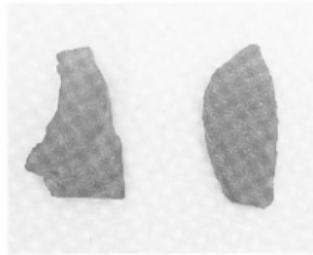
24



24



石器



石器



経塚遺構（推定丑刀勝示）



立石遺構（推定藤木山勝示）



六道峰（推定戌亥勝示）から足守庄域をみる



石造宝殿（王子堂）



推定王子堂跡地



八満山（八幡山）遠景（南から）



葦守八幡宮鳥居



葦守八幡宮背後の古道



半刀池跡



福岡山（冠山）



稼　山



延寿寺跡（南から）



推定未申榜示（北から）



推定未申榜示（南から）

図版第26



階田用水取水口



上土田用水取水口

## あとがき

現在、私たちの生活しております地面の下には歴史の豊かさを示す多くの文化遺産が存在しております、これらは埋蔵文化財と呼ばれる市民共有の先人達の遺産であり、子孫へ確かに伝えていかなければならぬ財産であります。

ところが丘陵そのものを削り取ったり、地下数メートルの地盤の掘削をも伴う最近の開発の激しさは、自然環境の破壊や公害問題はもとより、文化遺産に対しても極めて危険な状況を招来させています。岡山市教育委員会の文化課も文化遺産の保護と調査に努めていますが、土地と一体となっています埋蔵文化財の保護行政は開発か文化財の現存かのまさに二者択一の修羅場であります。こうした状況の内で、両者の整合を少しでも図るべく記録保存の発掘調査を実施していますが、その社会的要は天井知らずの恐れさえ覚えさせられます。私は、各種の発掘現場に立つ都度にその奥行きの深さと掛け替えの無さを痛感させられ、文化財保護行政の責務の重要性を改めて肝に銘じるところです。

此度の発掘調査は、市立足守幼稚園の園舎建築事業に起因したものです。調査は対策委員の先生方のご指導と、多くの関係者の皆様方のご尽力とご協力により無事終了し、ようやくここに報告書の刊行にまで漕ぎ着けました。極暑下での作業を思い出しながら、各位にここに感謝申し上げます。

発掘調査の成果はこの報告書にまとめましたが、今後の埋蔵文化財の保護保存と調査に、さらに私達の共有財産である郷土の文化財に対する理解と認識を深める一助となることを願うものであります。

最後に、此度の発掘調査並びに報告書の作成に厳しい状況の下で精力的な取り組みを遂行させた文化課の関係職員の労を多とします。

平成6年3月31日

岡山市教育委員会社会教育部

文化課長 青 山 淳

足守庄(足守幼稚園)関連遺跡発掘調査報告

平成6年3月31日発行

製作・編集 岡山市教育委員会文化課

発 行 岡山市教育委員会

岡山市大供1-1-1

印 刷 上部印刷工芸株式会社